

## 令和元（2019）年度サワラ東シナ海系群の資源評価

担当水研：西海区水産研究所

参画機関：新潟県水産海洋研究所、富山県農林水産総合技術センター水産研究所、石川県水産総合センター、福井県水産試験場、京都府農林水産技術センター海洋センター、福岡県水産海洋技術センター、佐賀県玄海水産振興センター、長崎県総合水産試験場

### 要 約

本系群の資源状態について、東シナ海の資源量指標値として大中型まき網の CPUE を用い、日本海の資源量指標値として大型定置網の CPUE を用いてそれぞれ評価した。本系群の資源水準は、日本と韓国の漁獲量から高位と判断した。動向は最近 5 年間（2014～2018 年）の東シナ海と日本海での資源量指標値の推移から横ばいと判断した。2018 年における日本の漁獲量は 11 千トン、韓国の漁獲量は 32 千トンであった。令和元年度 ABC 算定規則 2-1) に基づき、現状の資源水準と最近 3 年間（2016～2018 年）における東シナ海と日本海の資源量指標値の変動傾向を考慮した海域別の管理基準を用いて 2020 年 ABC をそれぞれ算出し、両海域の合計値を本系群の 2020 年 ABC とした。

管理基準	Target / Limit	2020 年 ABC (百トン)	漁獲割合 (%)	F 値 (現状の F 値からの増減%)
1.0・C2018 <sub>ECS</sub> ・0.46 1.0・C2018 <sub>JS</sub> ・0.79	Target	67	—	—
	Limit	83	—	—

Limit は、管理基準の下で許容される最大レベルの漁獲量である。Target は、資源変動の可能性やデータ誤差に起因する評価の不確実性を考慮し、より安定的な資源の増大または維持が期待される漁獲量である。ABC<sub>target</sub> = α ABC<sub>limit</sub> とし、係数 α には標準値 0.8 を用いた。ABC は日本漁業に対する値である。なお、C2018<sub>ECS</sub> と C2018<sub>JS</sub> は、それぞれ東シナ海と日本海の 2018 年漁獲量を示す。

年	資源量 (百トン)	親魚量 (百トン)	漁獲量 (百トン)	F 値	漁獲割合 (%)
2014	—	—	133	—	—
2015	—	—	141	—	—
2016	—	—	147	—	—
2017	—	—	104	—	—
2018	—	—	114	—	—

漁獲量は日本漁業に対する値である。































